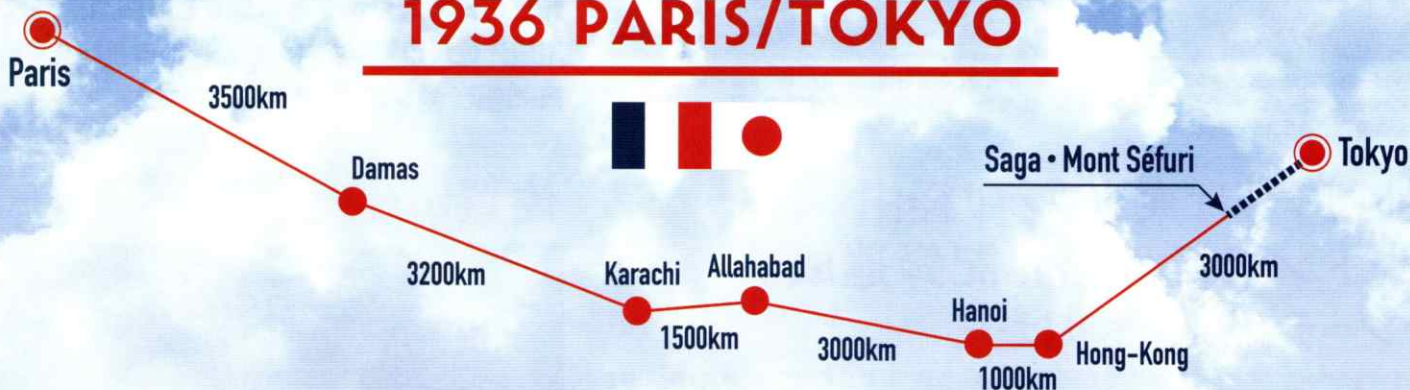


佐賀から 東京へ。



AILES ROUGES 赤い翼

1936 PARIS/TOKYO



未完の夢、世紀を超えて実現へ

1936年11月、フランスの飛行士アンドレ・ジャビーによる

パリー東京100時間飛行への挑戦は、

達成目前の佐賀県・脊振山で悪天候に阻まれ、未完に終わりました。

そして、今新たな挑戦が進行中です。同型機を復元して佐賀から東京まで飛ばし、

ジャビーが果たせなかった夢を完結させる「赤い翼」プロジェクトです。

夢の実現に向けて、皆さまの篤いご支援をお願いします！

- 主催 「赤い翼：パリー東京」実行委員会
- 主催 コードロン・シムーン復元協会
- 共催 軽井沢朗読館
- 後援 在日フランス大使館
- 助成 笹川日仏財団
- 助成 ラ・フランス共済組合財団
- 協賛 Bell & Ross



協賛・協力企業を募集中です。詳しくは、「赤い翼：パリー東京」プロジェクトのHP、<https://www.redwing2024.org>
又は、redwing19362024@gmail.com までお問い合わせください。



1936年、アンドレ・ジャビーは 当時の新鋭機コードロン・シムーンで 東京へ飛びたった。



① アンドレ・ジャビー (1904-1974)
ボーケール市出身。日本への飛行時は32才。



② アンドレ・ジャビーとコードロン・シムーン機



③ ジャビー機の翼の一部を持つステファン・ランテール (コードロン・シムーン復元協会会長: 左) とニコラ・ジャビー。



④ 2016年、神崎市との友好協定締結20周年 (遭難80周年) 記念に來日したボーケール市 ペラン市長一行 (元協会会長: 左) とニコラ・ジャビー。

「神風」号は東京-パリ経由 ロンドン飛行で世界記録達成。 サン=テグジュペリは…



⑤ 朝日新聞社機「神風」号: 1937 (昭和12) 年4月に東京・ロンドン間の亜欧連絡飛行を実施。総飛行距離約1万5千kmを約94時間で翔破し、国際航空連盟 (FAI) の公認記録を達成しました。



⑥ アンドレ・ジャビー (右) は「神風」号の飯沼 (左から2人目)・塚越 (左) 両飛行士に航路の示唆を与えています。



⑦ アンドレ・ジャビーの機体と同型の機体。サン=テグジュペリはコードロン・シムーンに乗って、パリからサイゴンに行く途中砂漠に墜落、この経験から『星の王子さま』が生まれました。

ジャビーの遭難と朝日の「神風」号

1936 (昭和11) 年11月、フランスの飛行士アンドレ・ジャビーはコードロン・シムーン機でパリから東京への100時間飛行レースに臨みました。しかし、途中佐賀県の脊振山 (せふりさん) で遭難し重傷を負い、地元民の手厚い看病によって回復します。帰途東京によって、朝日新聞社が挙行しようとしていた、東京・ロンドン間の亜欧連絡飛行について、飯沼正明・塚越賢爾両飛行士にアドバイスを授けました。1937 (昭和12) 年4月、パリを経由してロンドンまでの飛行は成功し、日本の国産機がヨーロッパまで飛び、世界記録を達成したのです。

赤い翼：パリー東京 プロジェクト

コードロン・シムーン機は現在1機がフランスの博物館に展示されていますが、1972年にモロッコで発見されたもう1機の機体を飛行可能状態に復元する作業が、アンドレ・ジャビーの子孫に当るニコラ・ジャビー氏を中心に進められています。今回のフランス側のプロジェクトはアンドレ・ジャビーが成功しなかった佐賀から東京までの飛行を、2025年頃に日本で実現する計画です。このフランス側の意気に応えて立ち上げたのが、赤い翼：パリー東京 プロジェクトです。東京大学名誉教授鈴木真二氏を会長、元駐仏日本大使木寺昌人氏を最高顧問、そして古川康元佐賀県知事、内川修治神崎市長等を実行委員に迎え、着実に準備を進めています。

佐賀から東京へ。



⑧ 現在復元中のコードロン・シムーン機。この飛行機が日本にやってくる。



⑨ 復元機を興味深く見る子供たち。